

◆ 申命記

申命記は、イスラエルの民が約束の地に入る前の「回顧と展望」です。モーセを通して、神がどんなに偉大であるか、神がどの様に自分たちを救い導いて下さったかを民は思い起こしました。そして、カナンに入る心備えをし、律法を守る契約を結びました。

律法の例

- 22:12 上着のふさが揺れるのを見て、律法を思い出すようにという神様のご配慮でした。
- 24:19 畑のとり残した物は、寄留者、寡婦や孤児に与えるよう、神は弱き者を大切にしました。
- 25:5 兄弟が死んだらその妻をめとり、名を絶やさぬようにというこの掟は、神と契約関係にあるイスラエルの民にとって大切でした。ルツ記のナオミやボアズの行為もこの掟に基づくものでした。

これらの律法の中心は「心をつくし、精神をつくし、力をつくして神を愛する」ことであると、イエス様が教えて下さいました。「あなたの神を愛する」ことをどのように表したらいいのでしょうか。

◆ ヨシュア記

モーセ五書で言われてきた「神の約束が、成就した」ということが書いてあります。その約束とは「約束の地、カナンを所有する」でした。神の言葉にヨシュアと民が従うことにより成就していきました。

ギルガル：ヨルダン川を渡ってすぐの地

ヘブル語の意味は、「転がす」という意味で、割礼を行うことにより「奴隷のそしりが完全に取り除かれ、神の契約の民となった」ことを表します。割礼の民だけが祝うことのできる過越の祭を喜び、楽しみました。ギルガルが、神の民としての記念の地となったのです。

私たちも神に新しくされた、心のギルガルを持ちましょう。

私のデイポーション

洗礼を受けても次から次へと与えられる問題。その度に自分の弱さと向き合わされるつらさ。私はよく「神様、あなたに会いたい」と心の中で言っていました。しかし、教会で祈ってごらんさいと示され、デイポーションの時を持つようになりました。朝、聖書箇所を読み、黙想したり、黙想文から自分との関わりを思い巡らしたりします。そして心に残るみ言葉を持って一日を過ごせるようにと祈ります。カードに書くこともあります。すると「神様、いつも共にいて下さってありがとうございます」という祈りになってきました。弱い私でも、神様が共におられると思うと心が安らぎます。

「神に近づきなさい。そうすれば神は近づいて下さいます。」(ヤコブ 4:8 新共同訳)